



アジア太平洋ナノテクノロジーフォーラム発足会議

アジア太平洋ナノテクノロジーフォーラム (APNF) が、2月26日(火)から28日(木)に主共催である産総研で開催されました。同地域各国の政策担当者、ナノテク研究開発組織(国、民間)、ベンチャービジネスがオープンに意見を交換するプラットフォームを提供することにより、このような場から新たな共創が生まれることを目指して2001年に設立されました。その活動の柱として年一回の国際会議の開催を予定し

ており、今回の発足会議はその記念すべき第1回となります。

講演者はオーストラリア、韓国、中国、台湾、タイ、シンガポール、アメリカ、ドイツ、イギリスと多岐にわたり、日本からは産総研をはじめ経済産業省、物質・材料研究機構、理化学研究所、東京大学、NEC(株)、富士通(株)、三菱商事(株)、三井物産(株)などからの講演がありました。三日間の会期中約180名もの参加者があり、会場の内外で活発な議論が



行われ、「ナノテクでこんな豪華な顔触れの講師が揃う会議は初めて」という声も聞かれました。



CRM 第1回技術講習会

化学物質リスク管理研究センター (CRM) 主催で3月12日～13日の2日間、臨海副都心センターにおいて、第1回技術講習会が開催されました。事前の公募に応募された企業、国・自治体、協会・法人から36名の方が参加されました。今回は、化学物質の大気環境濃度推定の講習会で、発生源近傍推定用の経済産業省開発、低煙源工場拡散モデルMETI-LISと広域推定のための産総

研開発東野モデル、メッシュ化広域大気化学物質濃度推定モデルAIST-ADMERの2つのモデルを用いて行われました。

モデルの開発に携わった吉門洋大気圏環境評価チーム長と東野晴同チーム研究員が、モデルの原理や使い方について講義し、参加者がパソコン上でモデルを操作、環境中濃度を推定する実習を行いました。参加者からは、操作性等の今後の改善点



についての意見や参加して良かった等の感想が寄せられ、好評のうちに終えることが出来ました。



第5回産総研光反応制御・光機能材料国際シンポジウム

PCPM2002 (5th AIST International Symposium on Photoreaction Control and Photofunctional Materials)

3月18日～20日に産総研つくばセンター共用講堂でPCPM2002が開催されました。本シンポジウムは、旧物質研時代から継続して実施されている中核的研究拠点(COE)育成制度による「光反応制御・光機能材料」プロジェクト(平成9年度から)の一環として、光反応制御・光機能材料の研究成果を発表するとともに、その研究分野の第一線で活躍されている研究者に講演・発表をしていただき、研究討論、交流することを目的とし

ており、今年で5回目になります。

このシンポジウムは、光反応制御、光機能材料分野の広い範囲にわたり、またそれぞれの基礎から応用までを含むという、一般の学会ではあまり見られないものです。

今回の講演は、外部の研究者によるもの16件(外国9件、国内7件)、産総研研究者によるものが7件あり、また、ポスター発表は105件もありました。参加者は、企業、大学、研究機関等から250名を超え、講演会



場、ポスター会場で活発な意見交換がなされました。次回の第6回は2003年秋に開催の予定です。



第3回光技術シンポジウム

<http://unit.aist.go.jp/photonics/event/3-1.htm>

3月1日(金)、日本科学未来館みらいCANホールにおいて第3回光技術シンポジウム「光-ITとライフサイエンス ～光技術が変革する21世紀の福祉高齢化社会～」が、約125名の参加者により開催されました。

本シンポジウムでは、21世紀の福祉高齢化社会に重要と思われる、光を利用した情報通信技術(IT)、ライ

フサイエンス研究にかかわる第一人者を講師に迎え、光技術の現状と将来について語っていただきました。光技術研究部門からは、中堅・若手研究者により最近の研究結果が発表されました。我々にとって身近な近未来のテーマに関わるものだけに有意義なシンポジウムであった、との感想が参加者から多く聞かれました。



第8回 自分で作ろう！化石レプリカ

3月23日(土)、産総研地質標本館において、「第8回 自分で作ろう！化石レプリカ」が行われました。地質標本館では、子供たちに地球科学に興味を持ってもらおうと、これまでいろいろな体験型イベントを行ってきました。中でも化石のレプリカ作りは人気のイベントです。石膏を水で溶いて型に流し込み、固まった後取り出した物を記念品として持ち帰ることができ、さらに自分流に水

彩絵の具で色つけできることなどが人気の要因となっています。毎年参加者からアンケートをとり、できるだけ要望に添うように努力しながら、1998年以来このイベントを定着させてきました。

今回作製した化石は「異常巻アンモナイト」と「新生代巻貝ビカリエラ」の2種類ですが、参加者全員が両方のレプリカ作製を希望しました。いかに本物らしく作るかがコッ



ですが、2つとない自分のコレクション作りに子供も大人も真剣な眼差しでした。当日は192名の参加者がありました。



ROBODEX2002 にロボット出展

3月28日(木)から3月31日(日)までの4日間、パシフィコ横浜において、最先端の人間共存型ロボットを一堂に集めた大規模な博覧会「ROBODEX2002」が開催され、企業や大学などから多くのパーソナルロボットの展示・実演が行われました。

産総研では、メンタルコミット・ロボット「パロ」と人間型ロボット「HRP-2P」を出展し大勢の人の注目を浴びました。「パロ」は子供たちの人気の的になり、訪れた人々が思わず背中を撫でてしまうなど、その癒し効果の大きさを実証しました。また、軽量で多自由度構造を持つ二足歩行ロボット「HRP-2P」は、ヒトと共同で机を目

的の場所に移動させる作業のデモンストラクションを行い、働くロボットとしての性能をアピールしました。

期間中は、いろいろな実演やイベントが開催され、会場は終日大盛況でした。





「ベンジャミン・フランクリンメダル物理学賞」受賞

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr20020129_1/pr20020129_1.html

2002年「ベンジャミン・フランクリンメダル物理学賞」を当所新炭素系材料開発研究センターの飯島澄男センター長が受賞しました。

「ベンジャミン・フランクリンメダル物理学賞」は、毎年、生命科学、工学、地球科学、化学、物理学、計算機・認知科学の6部門において、世界の優れた科学者、技術者に授与されるもので、飯島澄男センター長の「多層および単層カーボンナノ

チューブの発見、およびその原子構造とらせん状態の解明、これによるナノスケール科学と電子工学における凝縮物質と物質科学の急速な進展への著しい貢献」の研究が、評価されたものです。

4月25日、米国ペンシルバニア州ベンジャミン・フランクリン記念ナショナル記念ドームで、授賞式および受賞記念国際シンポジウムが開催されました。



2002 AIST Showcase Symposium on Human Information Technology (HIT)

6月11日米国カリフォルニア州サンタクララで開催

独立行政法人産業技術総合研究所(AIST)では、研究活動および成果の国際展開を図るため、初の試みとして6月11日に米国カリフォルニア州サンタクララにおいてシンポジウムを開催します。

午前中は、産総研におけるHIT関連研究の概要紹介のあとパナソニック・デジタルコンセプトセンター長ら米国側招待者らとのパネル討論および日米研究協力の講演を予定しています。また、午後は産総研の技術移転可能な研究を紹介し、共同研究、ライセンスを期待する当所研究者と米国企業関係者、大学関係者らとのコンタクトの場を設けます。なお、ここでは、本プログラムの一部をご紹介します。

本件の問い合わせ先：

産総研国際部門内事務局
(0298-61-3255)

AGENDA

Technology Showcase Session のみ
<Technology Showcase on HIT> (Parallel Session)

13:30-14:35 Session A (Software, Information Retrieval, Image Processing)

Chair: Dr. Hideo Tsukune

Overview: Dr. Hideo Tsukune

1. "Network Transferable Computer" Dr. Kuniyasu Suzuki
2. "Interactive Information Retrieval Based on Semantic Structure" Dr. Koiti Hasida
3. "Real-Time Gesture Recognition from Video Device" Dr. Ryuichi Oka
4. "Volume Graphics(VG) Cluster : Highly Parallel Visual Computing System" Dr. Shigeru Muraki
5. "Coloring Method for Multi-spectral MRI Images" Dr. Shigeru Muraki

13:30-14:35 Session B (Robots, Sensors, Electronic Devices) Chair: Dr. Tsunenori Sakamoto

Overview: Dr. Tsunenori Sakamoto

1. "All-in-Focus Microscopic Camera for Micro-Manipulation" Dr. Kohtarō Ohba
2. "Ubiquitous Surface Tactile Sensor" Dr. Takanori Shibata
3. "Portable Manipulation Robot" Dr. Fuminori Saito
4. "Evolvable HardWare" Dr. Tetsuya Higuchi
5. "Ultrafast Circuits Using Block-Copolymerized Polyimides" Dr. Taro Itatani